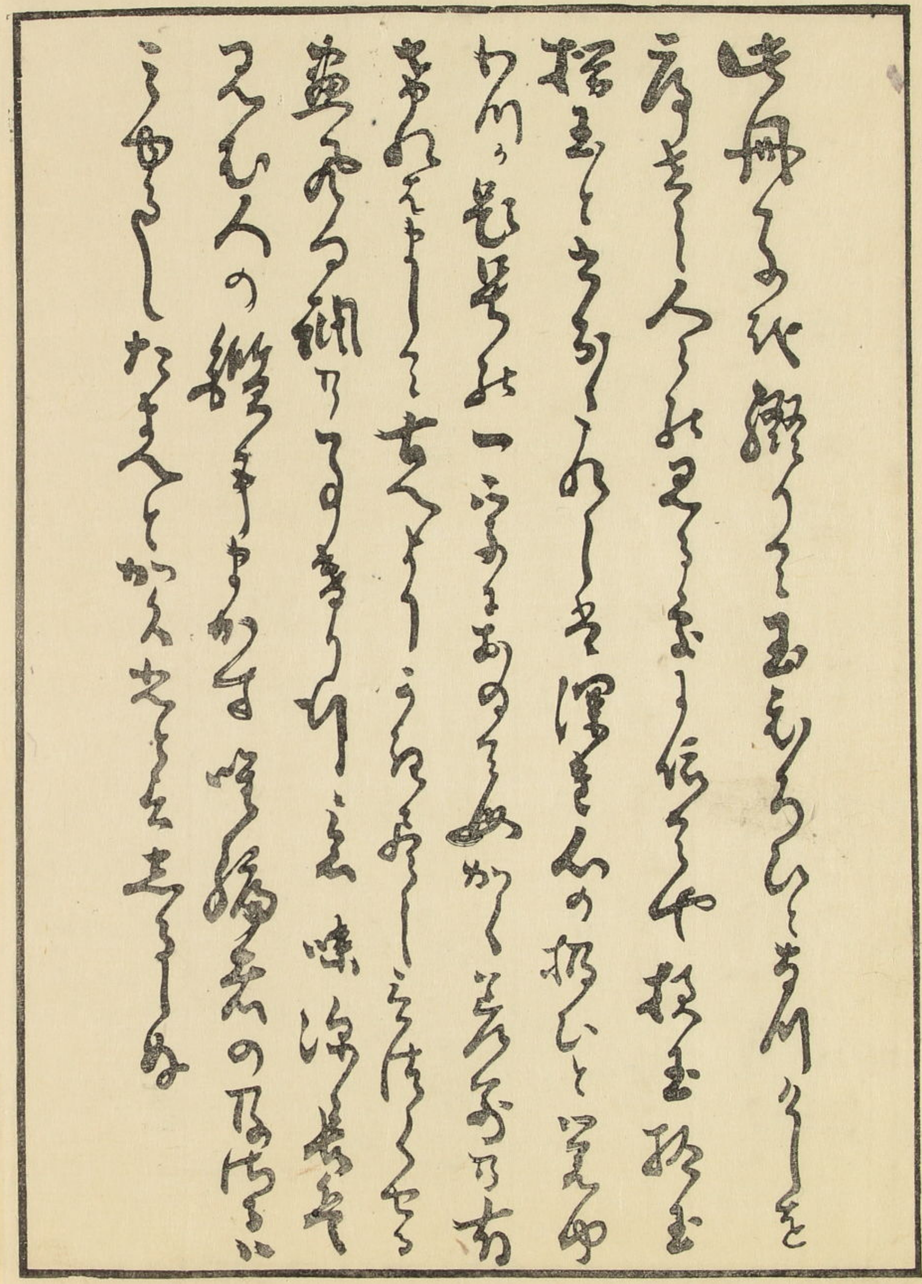
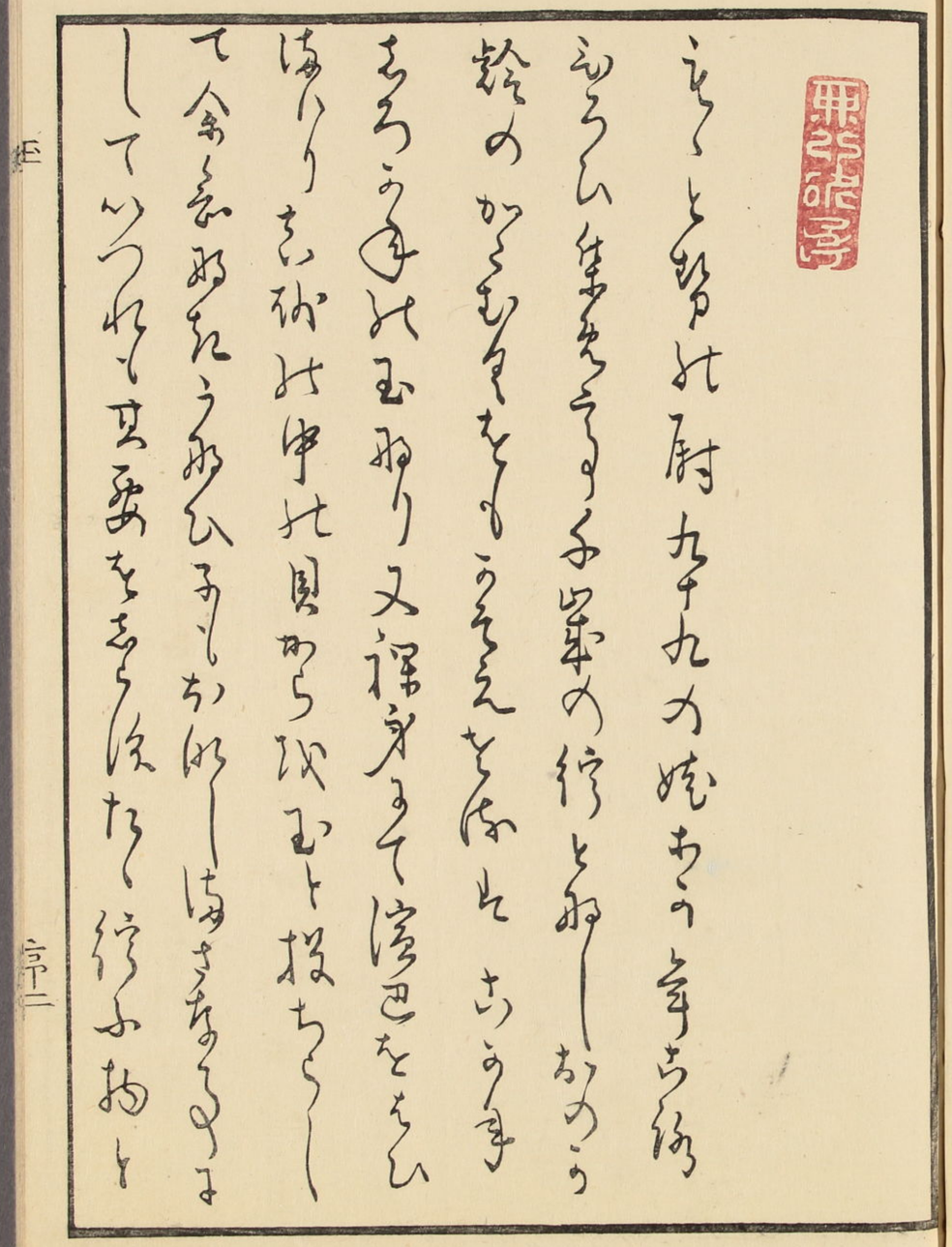
魚藻之部

乾

撈玉

八十四翁松谷郎





[illegible]

据玉集序

京師者天下之都會也壯觀勝景聚焉韻人騷士湊焉皆天下之尤者也雖然欲一一探討交歡之則攀躋之勞往来之勤非且夕可遂是遠陬僻境人所不能也矣爲岬翁俳家也頃者命京師西家尤之又尤者若干人摹京師勝景尤之又尤者五十斉餘處顕諸方俳句尤之又尤者於其上

輯為冊子名据玉集余見之喜曰都會之
壯觀聚于寸眸天下之韻事會于一掌花
鳥風月之變態哀樂悲歡之幽情歷々如
踏其地接其人是亦冊子中尤之又尤者
而大有功於余輩遠陬之人不堪欣喜書
以為序萬延辛酉之春

丹後

増山丹蓉

墨陵韶書

序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

之高朗者係之鴨江幽眇者係之深草他
玉聽蟲鼓鳥之什苟句之可取雖非題
詠皆分係之句之不可取雖係名勝不錄
也故篇篇清妙一無雜選是沒其所長
深服其識世之選文辭多重體裁畧顏
趣使衆妙索然不及烏岬遠矣

冷宮小史劉昇撰并書

序

[illegible]

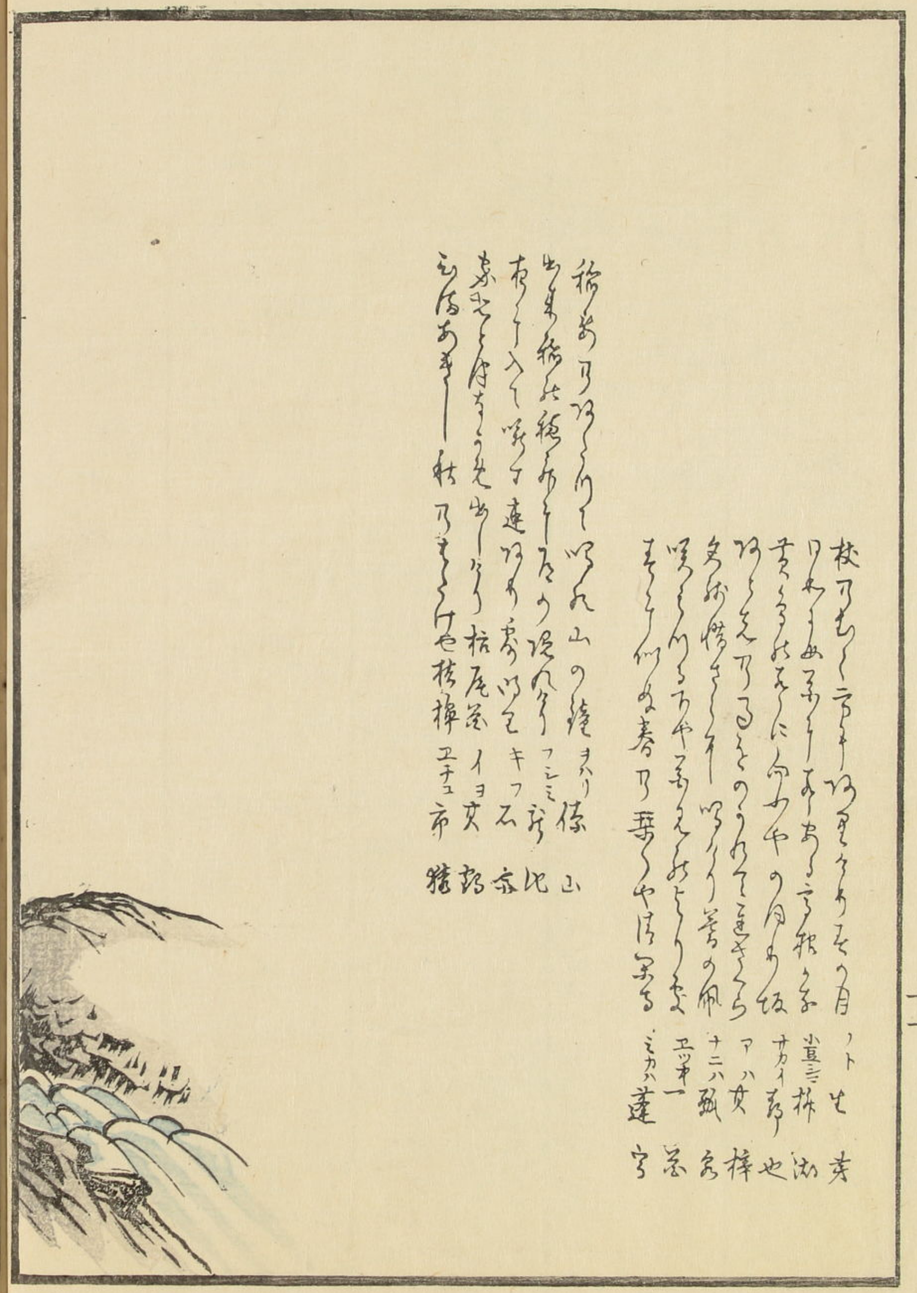
為ん事し一条の殿下
御ことの様と六十賀乃祝儀の
儀式ハ世ゝ様ゝ様ゝ其一様百倍ゝ勝の
実と雖ども乃ち聖代の寿考を
慶ゝ賀一の心ゝ也しゝゝ

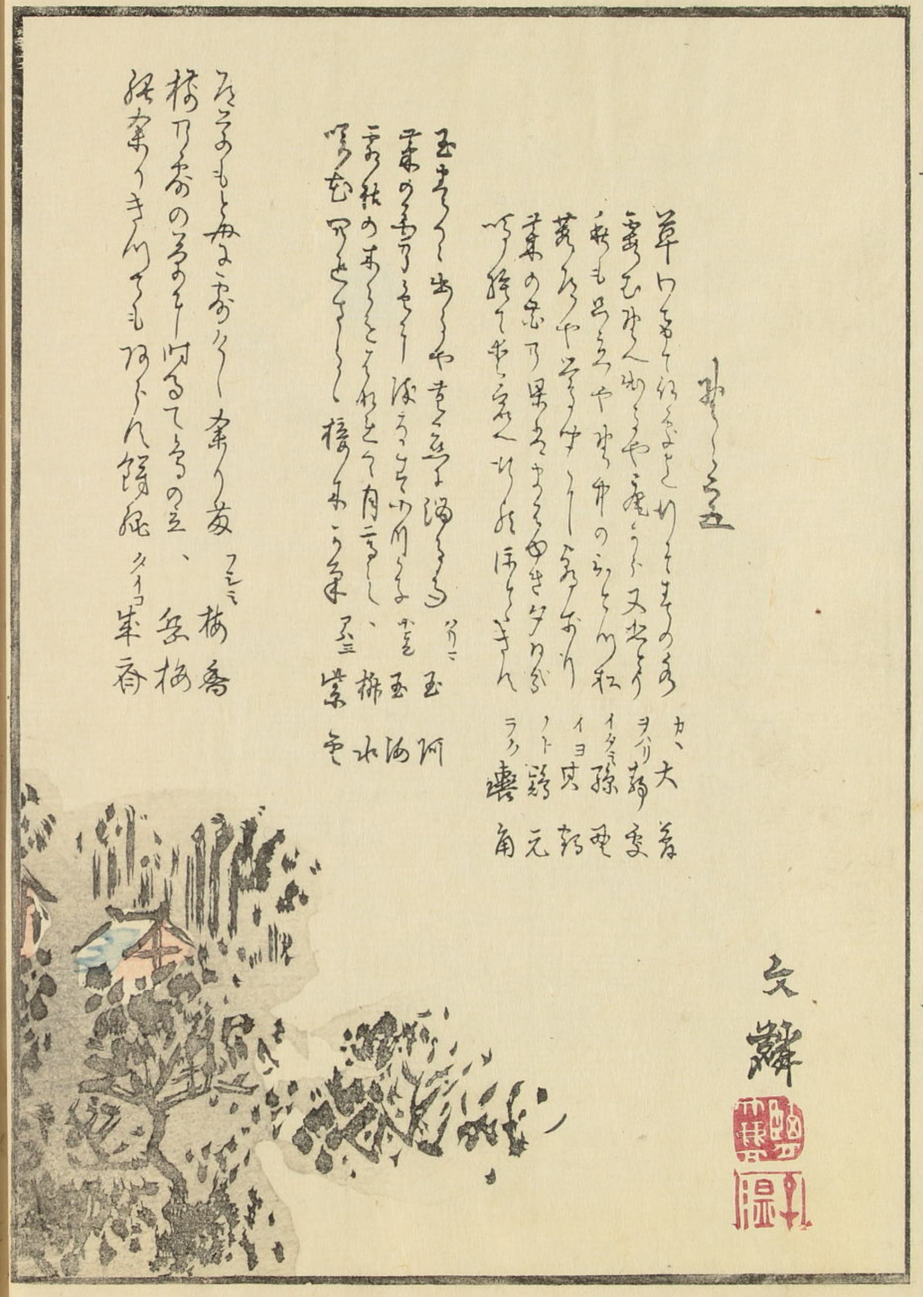
寿延のゝの夏春

藤原為忠

春ことのきゝやゝ
あ秋ことのゝ
聞ゝ
春の

如意嶽瀑布
華渓





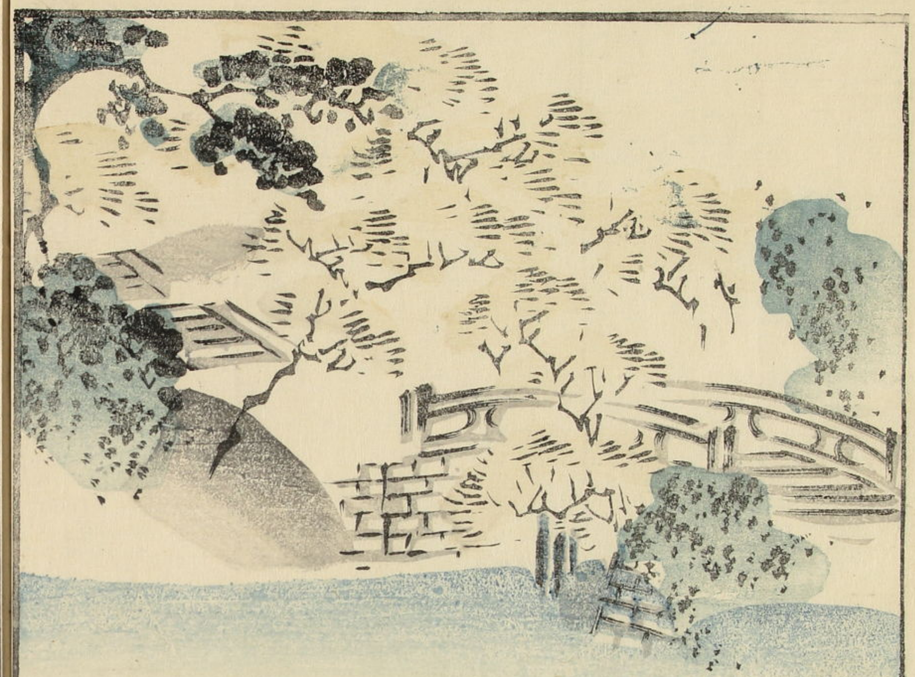
文鮮

神奈苑

蓮（ハス）　松（マツ）　池（イケ）　月（ツキ）　雪（ユキ）　花（ハナ）　鶴（ツル）　亀（カメ）　鯉（コイ）　何（ナニ）　蕨（ワラビ）　桜（サクラ）　梅（ウメ）　竹（タケ）　千（チ）　小豆（アヅキ）　瓜（ウリ）　常（ツネ）　昆布（コンブ）　蕗（フキ）　耳（ミミ）　菊（キク）　椿（ツバキ）　南（ミナミ）　国（クニ）　秀（ヒデ）

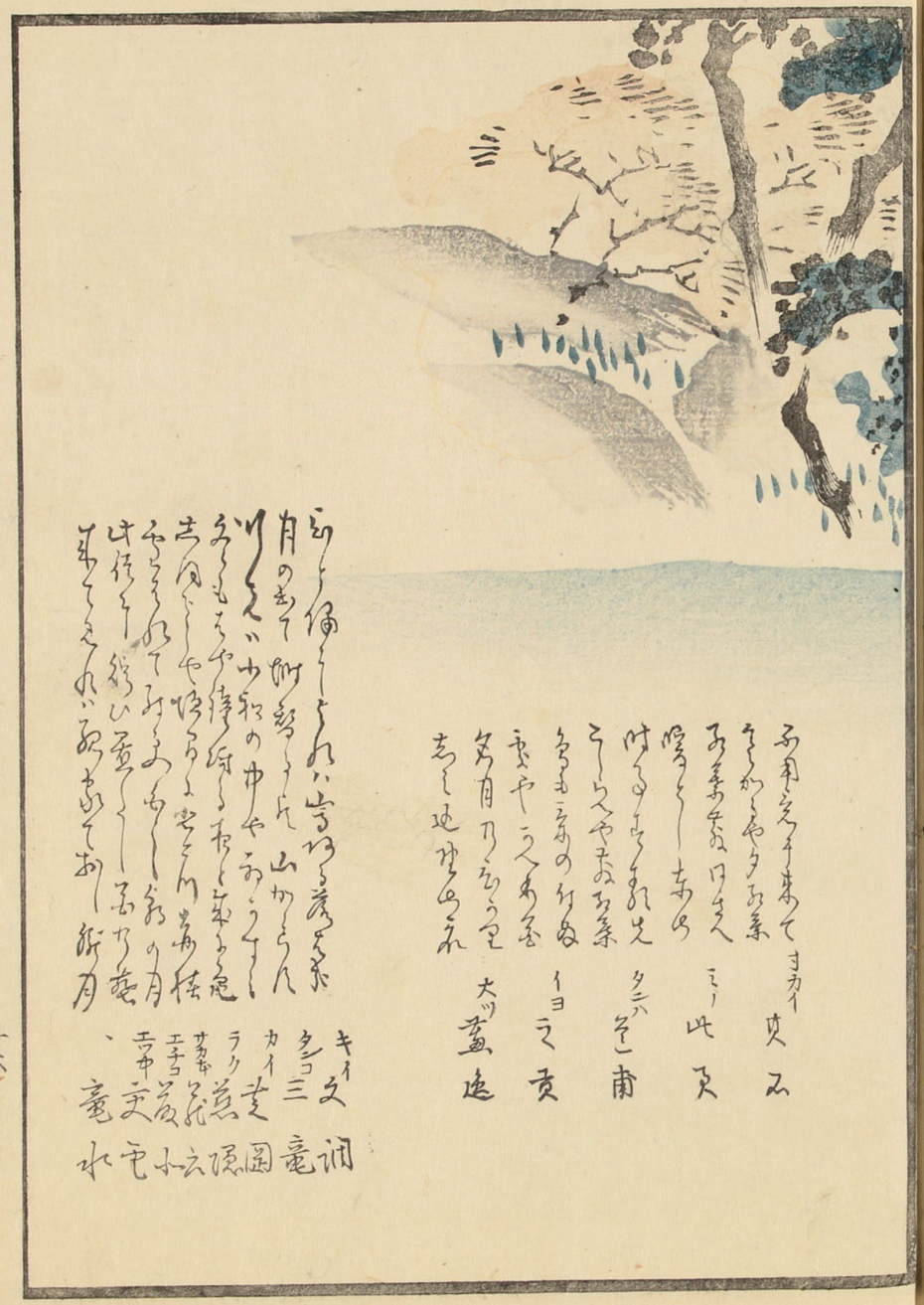
山吹や　影も　見えて　きよみ　山
流れ　ながら　水の　水　乃　見えて　十二月　一　経
赤の　玉　田螺　乃　子　を　もち　むすぶ　虹　蕗

玉章



幸龍山敎

永記事



夫れ人の世に生れ出て山かつらの山の中や谷うつしの水の流れ行ひ巡りて帰る月の如くなれば世の中の人の心の月の如くなれば世の中の人の心の月の如くなれば世の中の人の心の

文寛

南禪寺

十六夜

夫まつ[illegible]の秋
峰遠く[illegible]
押なべて書門寂[illegible]
る[illegible]
寺の[illegible]
[illegible]

ナラ坂家
アハ樗を
ワヨカ雪中
スキ曲盆
きら嵐牛

[illegible]
[illegible]
[illegible]

三笠の峰

世の人の名にしおはば如何なる　エト　兎　也
春の日の光にあたる雪なれば　タニヨ　水
雪とのみ消えぬるものを　イヨ　貫　我
ふるさと遠き人の数かな　三十　杉　郎
ふるさとは月の光ぞ　ラク　半　田

春の日の光にあたる木の芽なれば　キイ　一　道
ふるさとは雪のみ降りて　こう　雅
春もなく秋もなく　ろう　素かな　小夏　五　井
ふるさとは人の心ぞ　フミ　ふ　ろ
世の人の名にしおはば　ゆ　ら　ん　ち　ら　ば　ち　ら　ば　と　迷　う　嫁　大　い　蓋　迷

指月山
曲阜
琴石
瑞井
鉢室
松南

雲風
文吏
松月
牡丹書
右近場府中嶺

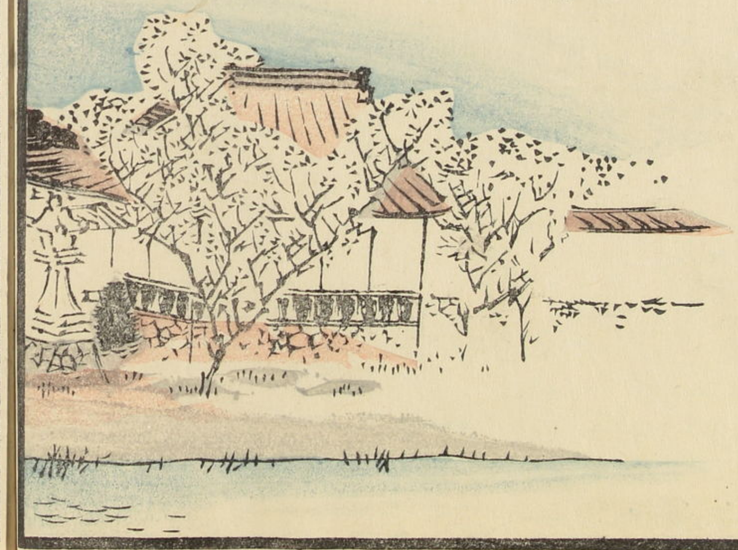
大内山

ねるめる笑やため白の土月らしを鳥谷
美素の峯入きく氏嫁く天、杜氏
白やあれ花あるく美素ヨハリ素 ゆ
奈伝ゆりきんよ移るる陸カイ田 夷
出前あるらら残夏やれの花ヒセン涼 ゆ

ゆるも所うまるり秋近し
ほらるうあるもりるゆやれの内タンハ有秋
美メ月ゆ月るるもるれ日美れユナ昇
美るるを有も冷しるるるるアラミ一畫
月るるるゆ姫の姫やを月る、をれ玉奪
牛

豊章

壽こと五



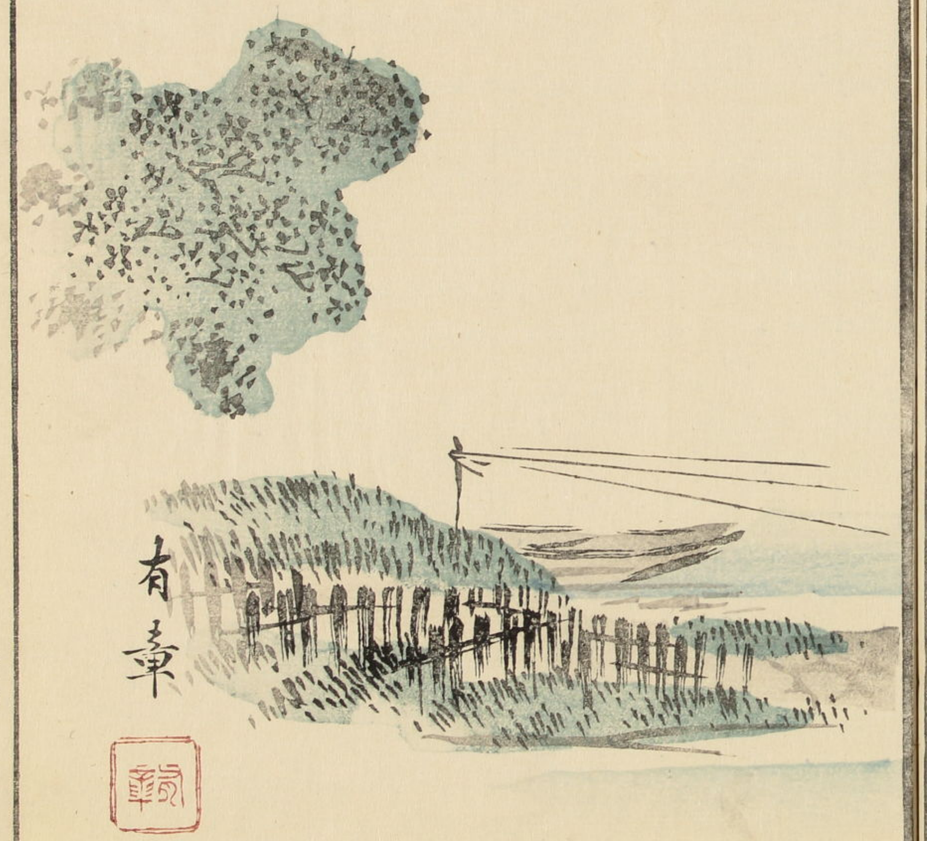
山熊毒

三條大橋

羅漢の図

[illegible]

[illegible]

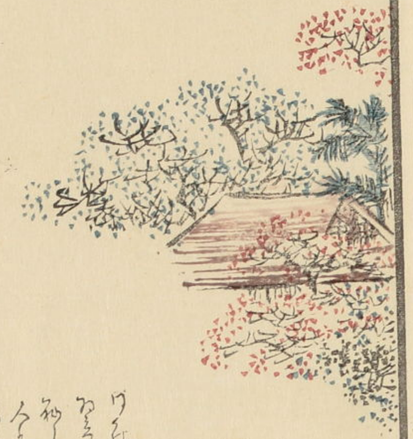


四時の緑

清暉

稻荷山

七十三翁牧山



南山居士

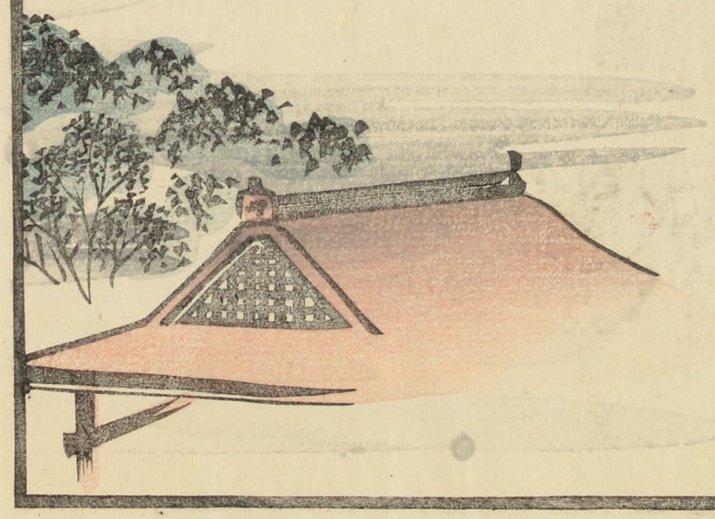
紫竹高千尺
交柯成一家
下臨千仞谷
不見日光斜
五月風雨急
夜聞波浪聲
唯有山僧
來
一一一一

牧山 丹英 野翁 洞 牧山 紙 菊園

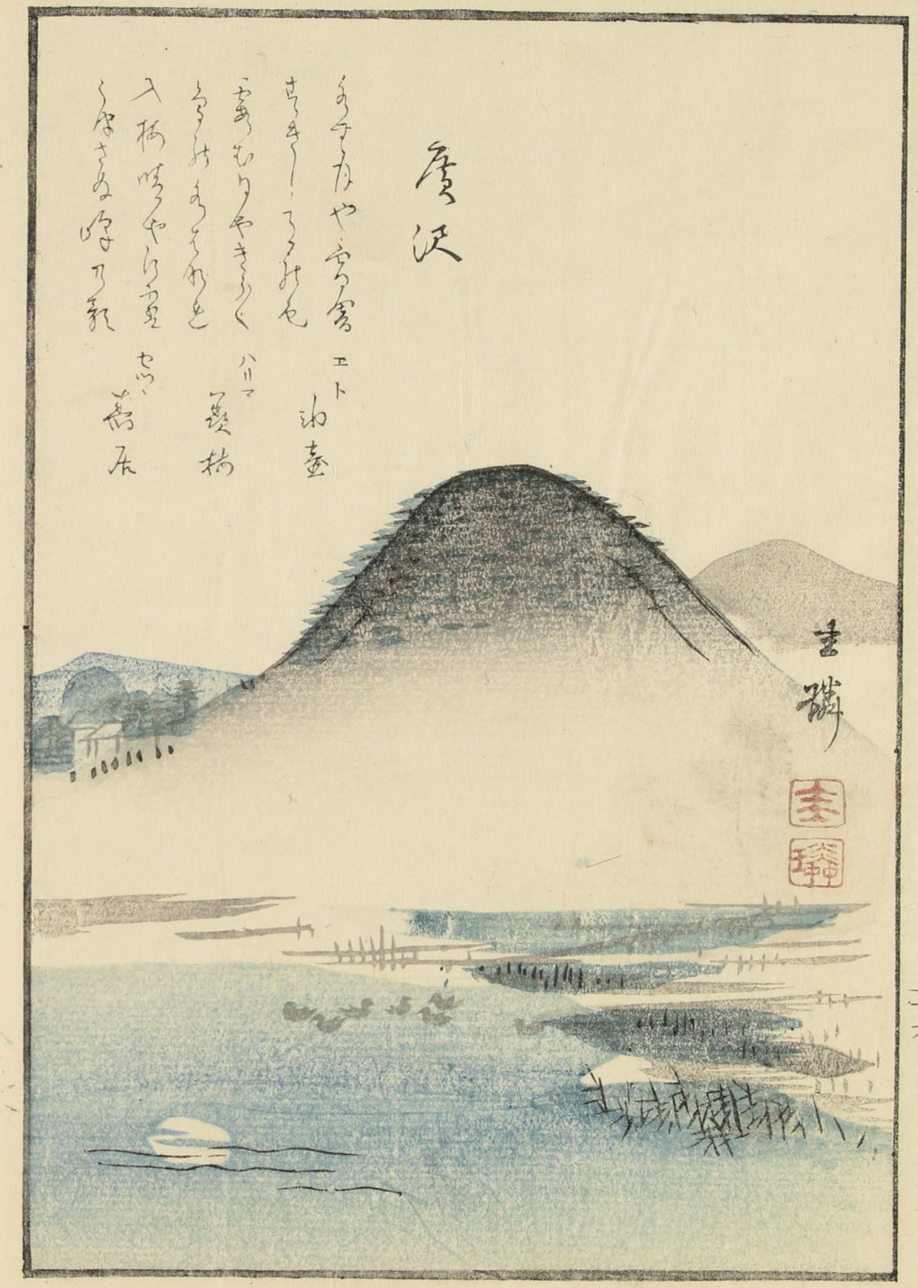
松尾

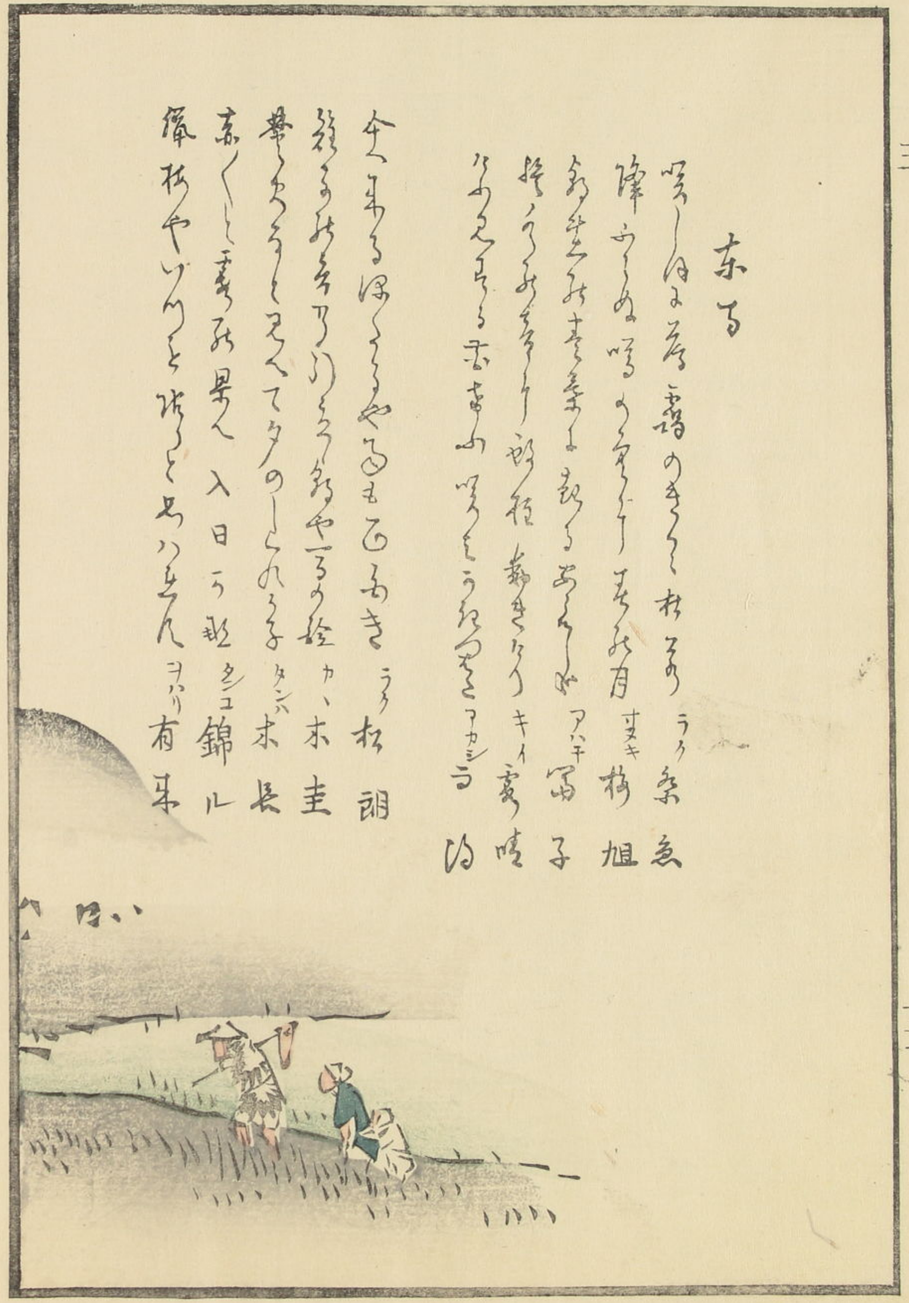
ラク凡如
クシコ有作
イシヘ遊山
タシコ杉往
アハヤ杉渉
ミカハ秋夢
ヒエニ樂方
エチヤ華史

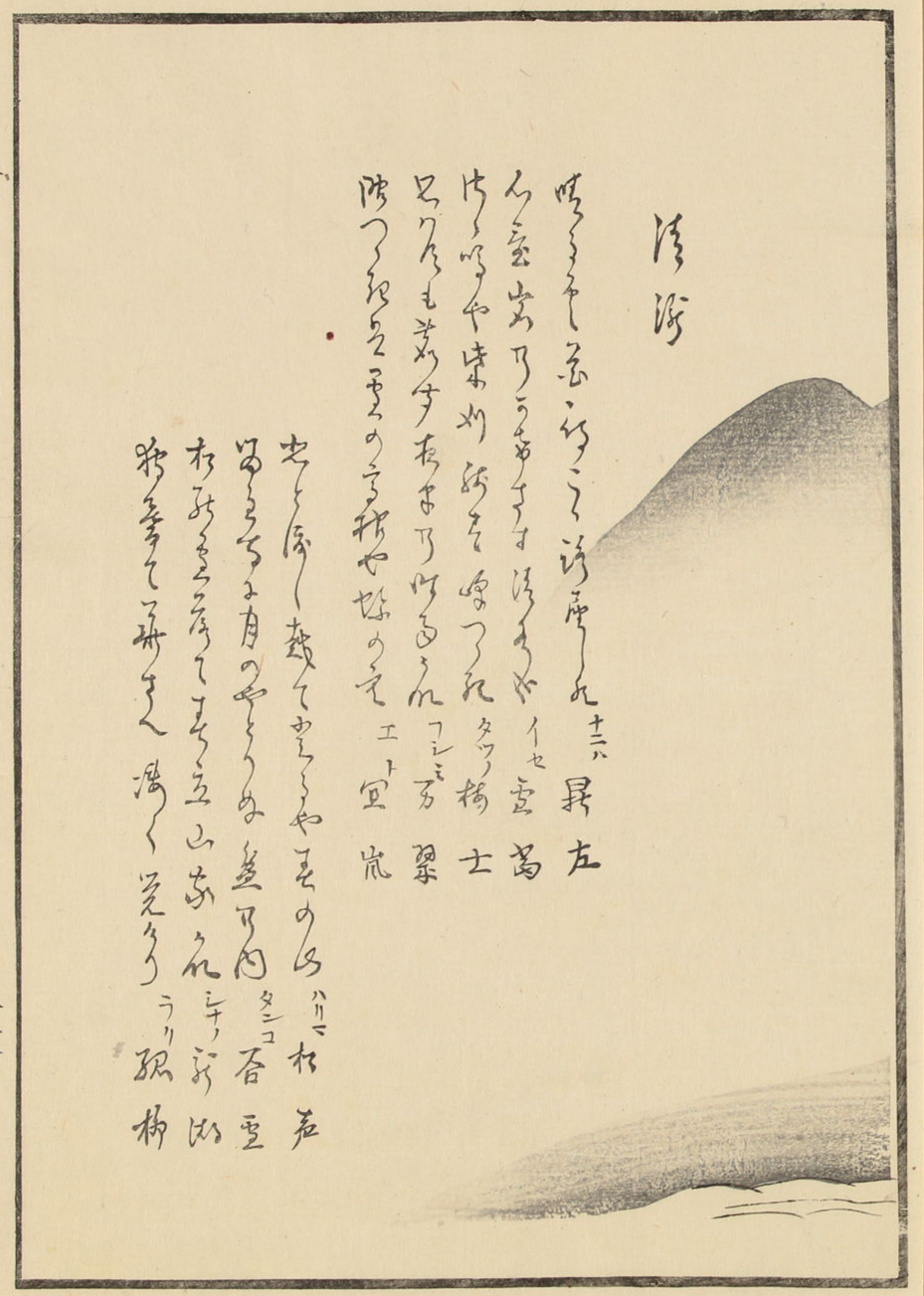
上加茂



圓山應挙


蘆沢
畫蹄





清溪

晴ると雨とに行こう清溪れ　十二月　昇左
人家密集の中を清溪イセ雪　嵩
清水の中を柴刈行く　峰つれタツ橋　士
只乃至も茅刈り　木乃時コレミ方　梁
陸つ船を重の高枕　エト宜　嵐

出て歩く幾てやまのもの　ハリ　杉　花
月のやうな　月乃内　タニコ　香　亜
杉苔の高山　水　れ　ミチ　ヶ　沈
物を　て　孫　く　見　ウリ　孤　柳

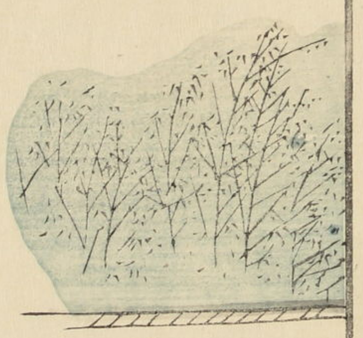
山嶺俄為
書畫場
柴薪是筆
勢相張
千尋門
可通天影
一片舟
難藏壑光
或想月宮
寒變熱
又疑星漢
水如湯
坐觀未倦
蹤皆滅
大字明二
左右長
能登長尾鰐題

めをとヶ嶽

[illegible] 山を [illegible] 太斗表
小さき [illegible] 大文字
きえあるの [illegible] も、万丈
ちゝ [illegible] 大ゝん [illegible]
大文字や去り乃、一清
やゝ [illegible] 蛍 [illegible]
四たゝや山も多ひ、佳者
乃おろとゝ [illegible]

大文字乃あせさり [illegible] 自の中、草子
ゆ [illegible] 誘ひぬ大ゝん [illegible]、夫迄
ゝゝや比叡を [illegible] 清 [illegible]、扨も
自然や角おれたる中ゝ [illegible] 尾仝
扨ゝ [illegible] 山乃 [illegible] 清 [illegible] 十六 新重
[illegible] 大文字

為岬



麦架山

[illegible]

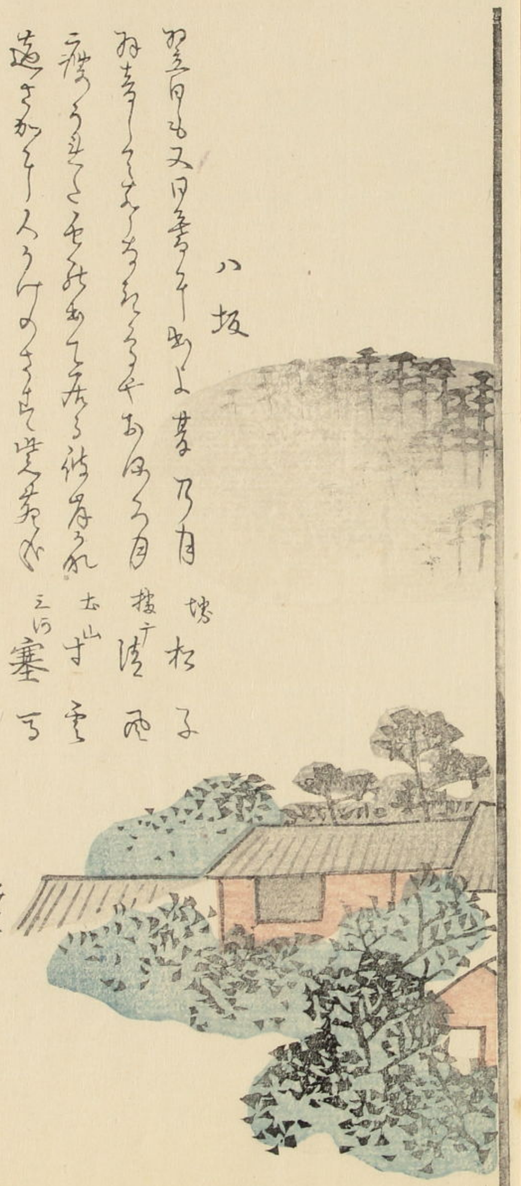
柿子　[illegible]

[illegible]

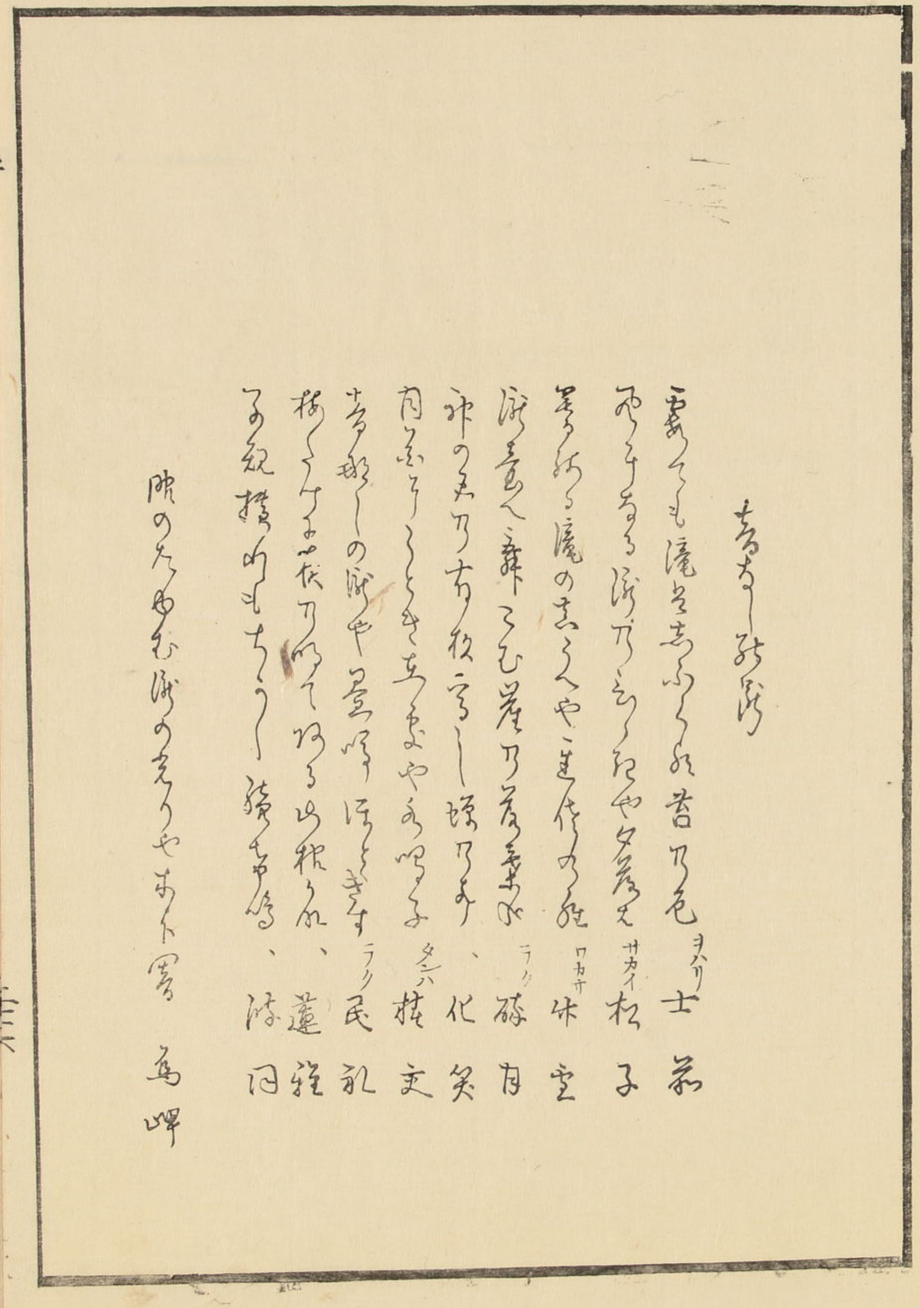
呂泉

[illegible]

[illegible]



八坂



青々と秋の空
雲さへも流さぬ滝を吉野山　士英
散てなほ残る滝の白糸　松子
岩ぬける滝の玉ちる花の枝　休堂
滝音へ響て岩の谷の底　孤月
神の天乃方仮言し坂乃上　化矣
雨ふるごとくに散や滝の水　桂文
青葉影しの滝やあらく民乃
桜ちりて花乃残る山根哉　蓮雀
る紅葉ぬれもちうつ猿ぬぐ　洋月

陸の人ぬれむ滝のたうやあと雲　高峰

百仙

竜あり

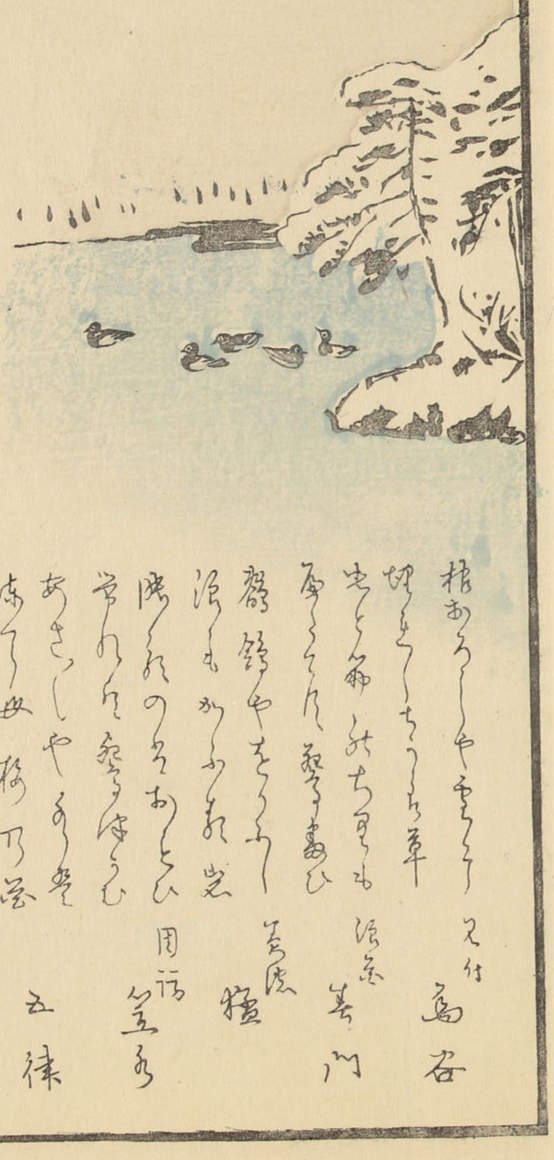
二條

山切

河秀

乗五

竜あり



高谷

茗門

糧

五律

用語

右 梅

仙 狭

靈山

三ヶ一時ニ成ル　赤甫

去ル比有ル人ハ　我ノ名カ、時江

又雪ニ成ル　深ク　赤ク　カ身と梅イヨ川

梅ヨクハ成ル　序ノ如ク　新志ノ　ヨキヨ　池

先一ツ　移ル　ヒカリ　ヨハリ　一清

潛佛や　京ヨ　ラク　詩徒

坪時や　ヒカリ　ヒカ　ヒカ　ヒカ

通了稿

然吟ずれば新樹の葉うすく
明て朱とうるおひ菜の合もうすく
かゝる平陸の春おもやしうれ
嘶りうゝとの情きしあの百象
家人ゐうるゝ手出うゝ春乃夕
指〻手おゝ日うかゝ蒙の蓑也

山吹中ゝたゝしかれおと左内 杖子
まかるる春之ゝられい咲てゐる体夫 昨夫
雲かゝる毋をと之ゝ小 盈 文伊 探支
又ゝも又あゝ也ゝみ中ゝ 汚 風 裡
逝ゝれ屋ゝゝ迎ゝ春、 佳 香
多りやちと永生乃ゝ ゝ 橋 山

秋歌

手枕の夢ぬ紫ちるを
しをれつるあ
ふるの
なかの雲
ひかりを
三屋お